

カービュー マーケットウォッチ (2010年11月)

自動車総合サイト「carview.co.jp」を運営する株式会社カービュー（本社：東京都中央区、代表取締役：松本 基）は、社団法人 日本自動車販売協会連合会が公表する「月間登録台数ランキング」をもとに、日本国内における自動車マーケットの動きを独自分析する。

2カ月連続で前年を下回り、下げ幅も25.9%減に拡大！

10年10月順位	10年9月順位	動向	モデル名	メーカー名	台数
1	(1)	→	プリウス	トヨタ	21,769
2	(2)	→	フィット	ホンダ	14,034
3	(4)	↑	カローラ	トヨタ	7,760
4	(3)	↓	フリード	ホンダ	6,747
5	(5)	→	ヴィッツ	トヨタ	6,315
6	(14)	↑	ヴォクシー	トヨタ	5,572
7	(7)	→	パッソ	トヨタ	5,363
8	(21)	↑	ヴェルファイア	トヨタ	5,251
9	(12)	↑	ステップワゴン	ホンダ	4,681
10	(20)	↑	ウィッシュ	トヨタ	4,421
11	(19)	↑	スイフト	スズキ	3,683
12	(16)	↑	ノア	トヨタ	3,650
13	(10)	↓	エルグランド	日産	3,437
14	(18)	↑	エスティマ	トヨタ	3,117
15	(8)	↓	マーチ	日産	2,987
16	(25)	↑	アルファード	トヨタ	2,915
17	(9)	↓	ノート	日産	2,464
18	(29)	↑	ジューク	日産	2,461
19	(23)	↑	クラウン	トヨタ	2,349
20	(6)	↓	セレナ	日産	2,151

※ 社団法人 日本自動車販売協会連合会調べ

※ 輸入車および軽自動車を除く

カービュー編集部独自の分析

■2カ月連続で前年を下回り、下げ幅も25.9%減に拡大！

海外メーカー製輸入車は前年同月比100.4%と堅調

今回は、日本自動車販売協会連合会（自販連）、全国軽自動車協会連合会（全軽自協）、日本自動車輸入組合（JAIA）が発表した10月の販売データからマーケット概況をチェックしていこう。まず輸入車、軽自動車を含め、国内で販売された乗用車総数は25万1493台で、前年同月比は74.1%と2カ月連続の前年割れ。下げ幅も25.9%減と、9月の3.2%減より大幅に拡大した。ただ新車購入補助金終了の反動としては前年同月比3割減以上といった厳しい予想もあったため、減少幅は想定より小さかったという見方もある。いずれにしても、3683台で前年同月比103.6%の「スズキ スイフト」、3437台で同846.6%と絶好調の「日産 エルグランド」、2987台で同162.1%の「日産 マーチ」など、最近発売されたニューモデルがいずれも順調に売れているのは厳しい市場環境にあつての数少ない好材料だ。

輸入車と軽乗用車を除く3/5ナンバーの国産乗用車（新型・日産マーチ分含む）は16万990台で、前年同月比69.9%。3ナンバーの普通車が7万6743台で前年同月比77.2%、5ナンバーの小型車は8万2447台、同64.4%と、補助金の恩恵が大きかった小型車が大きく落ち込んだ。メーカー合計では全メーカーが前年同月比2ケタ超のマイナスだが、マツダ、三菱、ダイハツは前年同月比43.6%、50.2%、44.6%と半減してしまった。

月間ランキングでは18カ月連続トップの「トヨタ プリウス」と19カ月連続2位の「ホンダ フィット」、前月よりワンランクアップの3位「トヨタ カローラ」は、前年同月比80.9%、90.8%、99.5%とまずまずの売れ行きをキープ。やはり「トヨタ ヴィッツ」「トヨタ パッソ」、 「日産 ノート」、「マツダ デミオ」といったコンパクトカーが前年同月比50.9%、50.7%、43.9%、45.5%と厳しい状況だ。

軽自動車は、乗用車部門が7万9852台で前年同月比81%、貨物車を含めた軽自動車全体でも11万1070台で、同83.8%と10カ月ぶりに前年を下回った。とはいえ、減少幅は想定内で、「ホンダ ライフ」のマイナーチェンジや「ダイハツ ムーヴ」のモデルチェンジを控えているだけに、早期回復もありそうだ。

輸入乗用車はマーチなどの日本メーカー製を除いた海外メーカー製のみでも、1万257台、前年同月比100.4%（日本メーカー製を含めた輸入乗用車全体では1万3616台、同127.1%）と12カ月連続で前年を上回った。海外メーカーブランド別乗用車ランキングは、VW（フォルクスワーゲン）が2512台でトップを奪還。2040台、前年同月比110%のBWM（MINIを除く）が2位、前月トップのメルセデス・ベンツは前年割れの1496台で3位、アウディは906台で順位こそ4位キープだが、前年同月比20%減と、勢いに差の出た結果となった。

■ココも気になる！その1

ホンダ vs 日産の2位争いに注目！

10月単月で、前年同月比74.1%と落ち込んだ国内の乗用車市場。世界的な金融危機の引き金となったリーマンショックが勃発した08年10月と比べても、同月比79.9%とかなり厳しい状況だ。市場全体のパイが減少すれば、メーカーシェアの奪い合いはより激化するもの。そんなメーカー間バトルでは、王者トヨタに次ぐ2位争いを展開するホンダと日産から目が離せない。

昨年、貨物車を含めた全販売台数で2位になったホンダは、今年の1~10月累計が56万3923台。日産は昨年スズキにも抜かれ3位に終わったが、今年は56万9147台で2位につけている。ただ軽を含めた乗用車に限ると、その立場は逆転。ホンダ52万1307台、日産50万1022台とホンダがリードしているのだ。とはいえ、9月単月では6カ月ぶりにホンダを上回るなど、日産はニューモデル攻勢が効果を上げ、ホンダを猛追。10月はホンダが売れ行きNo.1モデル「フィット」をマイナーチェンジし、ハイブリッドを追加したことで、日産をリードしたが、日産は11月に主力ミニバン「セレナ」をモデルチェンジ。発売は29日からだが、事前予約が好調だったこともあり、ホンダとのバトルは予断を許さない状況だ。

ホンダのキモはフィットの売れ行きだろう。10月8日の発売後約2週間で、2万1000台の受注を集め、そのうちハイブリッドが71%を占める好スタート。10月単月では、ガソリン車6884台、ハイブリッド7150台となった。月間販売目標はフィット全体で1万4000台だが、ハイブリッド比率が高まると、生産が追いつくかどうかポイントになりそうだ。またホンダは11月にフィットに次ぐ売れ行きの「フリード」をマイナーチェンジし、燃費を向上。さらに「ライフ」のマイナーチェンジも予定され、日産のニューモデル攻勢をしのぐ作戦。年末にどちらに軍配が上がるか、要注目だ。

■ココも気になる！その2

エコカー減税対象車の拡大で拡販を狙う BMW

昨年は MINI を除く BMW ブランド全体で、2万 9090 台、前年比 80.9%と 3 年連続の前年割れ。MINI ブランドも 1万 1002 台、前年比 86.3%と 2 年連続で前年を下回るなど、苦戦続きだった。しかし今年 3 月に投入した新型「5 シリーズ」が好調に推移。特に、BMW 初のエコカー減税対象車として 528i セダンを設定したのを皮切りに、順次対象モデルを拡大したことで、4~9 月の販売台数は前年同期比 75.4%増の 3017 台となった。このほか、「3 シリーズ」は 1~9 月累計で 8513 台、前年同期比 88%にとどまったものの、「1 シリーズ」が 4709 台、同 125.6%、MINI も 8714 台、同 105.4%と好調で、4 月に発売した「X1」も 9 月末時点で 2391 台と着実に売れ、BMW 全体 (MINI を含む) では 1~10 月累計 3 万 4894 台、前年同期比 110.4%と復調傾向になった。

これは世界的な傾向で、1~9 月の販売台数は BMW ブランドが 14.8%増の 89 万 2737 台、MINI ブランドは 3.8%増の 16 万 7751 台。特に香港、台湾を含めた中国市場が好調で、ほぼ 2 倍となる 96.1%増の 13 万 2270 台を記録した。

さらに BMW は、好調 5 シリーズに 3 グレードのエコカー減税対象車、535i セダン、528i ツーリング、535i ツーリングを追加。これで全 7 グレード中、6 グレードが対象モデルとなった。また昨年 10 月に発表し、今年初めから納車が始まった「アクティブハイブリッド 7 ロング」に加え、標準ホイールベース車の導入を 8 月に発表。納車は 11 月より開始されるが、自動車取得税 & 重量税 100%免税、自動車税 50%減税が適用されることになり、要注目。来春発売されるミニ初の SUV「MINI クロスオーバー」もエコカー減税対象車になる見通しで、ますますプレミアムエコカー路線が拡充されそうだ。

上記プレスリリースに関するお問い合わせ先

株式会社カービュー 広報・法務室 (pr@carview.co.jp)

tel : 03-5859-6158 fax : 03-5859-6180
